

平成23年度
(第3四半期)

広貫堂グループ IR情報

株式会社 広貫堂

事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 売上面においては前年同期比99.5%、計画比97.8%の実績で推移しました。経常損益については、年度計画に対して増加であったものの、前年同期に比べ約5,900万円の減少となりました。項目としては、販売管理費面において概ね予算及び前年同期を下回ってはいるものの、製品製造原価面(原材料費及び呉羽工場減価償却費等)での前年同期比4億8,600万円増が要因となった結果、マイナス2億1,000万円の実績となりました。

(事業運営面) グループ会社売上その他、本体販売4部門の内、グローバル事業及びOTC事業が年度目標から乖離した状況にあります。グローバル事業は9月度より海外子会社(韓国・タイ)を立上げグループの販売に寄与。又OTC事業部は2,000店舗の拠点を確保、ユーザー育成に総力を挙げ営業展開を図っています。

課題への取組み

新規受注対応と比例し生産設備の投資もかさむ現状ではありますが、弊社グループ全体における販売増強をはかり、早期の原価軽減に努めています。併せてコスト削減を引き続き実施しており赤字幅の縮小、及び来期の黒字回復に全力で取組んで参ります。

トピックス、適時情報

1. 当社は9月1日フェイスブックに公式ページを開設しました。広貫堂グループの様々な話題、情報を発信しておりますので、是非一度ご覧になってください。
2. 富山県、富山大学、県内製薬企業の三者が連携して開発された、和漢生薬の胃腸薬「越撰(エッセン)」のテレビCMが完成し、11月から放映されています。

業績の概況 (広貫堂・単体) (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	7,914,672	8,092,437	8,244,576	8,205,828
経常利益	566,165	163,873	-150,462	-210,310

広貫堂グループ

連結経営成績に関する定性的情報

売上面においては前年同期比99.9%で約1,000万円の減少、年間目標額の72.5%の進捗状況です。売上原価は本体製造コスト要因にて前年同期より1億800万円増加となっており、経常損益は前年同期より9,500万円減少の実績となりました。しかしながら、年度損益は年間目標対比39.5%に留まっており、第3四半期の期間損益においては黒字の状況にあります。第4四半期以降も新設ドリンクラインの償却費用が加味されますが引き続き販売増及びコスト削減に全社挙げて取組んで参ります。

業績の概況 (広貫堂グループ・連結) (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	10,046,748	10,012,186	10,399,273	10,388,842
経常利益	737,132	373,682	-43,983	-139,583

平成23年度
(第3四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

薬都広貫堂 株式会社

事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

第3四半期まで新製品5品目、リニューアル製品3品目を導入しましたが、目標比92.0%、前年同期比94.7%、経常利益は目標比120.9%、前年同期比81.2%の減収減益で第3四半期を終えました。

(事業運営面)

既存製品はもとより、新発売製品のエリア別販売戦略を基本とする営業展開の徹底と、配置市場に求められる製品を開発、発売していきます。なお、第4四半期では医薬品1品目、健康食品2品目(リニューアル含)の発売を予定しております。

トピックス、適時情報

第3四半期の新製品、リニューアル品として下記製品を発売しました。

1. 第3類医薬品 : パピアセンG7 120CP
2. 第 類医薬品 : ベンザエースA 18錠
3. 健康食品 : 牡蠣ゴールド 50粒、280粒

業績の概況 (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	3,059,774	2,857,614	2,822,681	2,672,538
経常利益	64,851	95,637	57,384	46,623

日本薬劑 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

売上高は、100mlドリンクなどの販売増が寄与し、前年同期比107.2%の34億1,336万円となりました。また経常利益は前年同期比120.5%の1億3,672万円となりました。

(事業運営面)

メディカルサポート事業部およびヘルスケア事業部では市場ニーズに応えた製品の開発を進めております。年間を通じて順次製品を上市しています。

トピックス、適時情報

新発売(4～12月)

- かぜ薬 2アイテム
- 止瀉薬 2アイテム
- 胃腸薬 3アイテム

業績の概況 (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	2,279,548	2,720,975	3,182,650	3,413,364
経常利益	53,498	92,527	113,453	136,725

平成23年度
(第3四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

廣貫堂産業 株式会社

事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 売上高は、1億108万円(前年同期比943万円の減)、売上総利益は6,635万円となりました。また販管費は6,283万円(前年同期比693万円の減)となりました。その結果、経常利益は696万円(前年同期比48万円の増)となりました。
(事業運営面) 「懸場物語Jr」を3法人、「懸場物語プロ」を2法人に納品を行い、問題なく運用され顧客満足を得ています。2月には「懸場物語プロ」を1法人に納品予定をしております。また、販社様からはシステム説明の訪問依頼等が多数あり、更なる機能強化と顧客満足のいただけるシステムとなるように日々努めています。

トピックス、適時情報

1. ipad版の配置システムを24年6月完成をめざして開発中です。
2. 「懸場物語」シリーズ導入より蓄積された「顧客情報」・「商品販売情報」・担当実績情報」・「在庫情報」などのデータを基にipadを利用した顧客価値創造システムを検討中です。

業績の概況 (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	137,040	72,653	110,516	101,086
経常利益	10,224	-10,845	6,484	6,967

広貫堂メディアーズ 株式会社

事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 新規開発商品並びに既存商品の販促強化に努めましたが、健康飲料の販売不振や一部商品の大幅な落ち込みにより、4,915万円の減(前年同期比79.4%)となりました。また、経常損益は、売上の落ち込みに伴い1,780万円の増加となりました。
(事業運営面) 下期新規販売商品の販促強化並びに来年度に向けての新商品企画を行っております。

トピックス、適時情報

1. 指定医薬部外品「サンリキソダッシュ」を10月に発売し、CoCoストア、ローソン(北陸エリア)等にて販売いたしました。
2. 首都圏並びに県内外の展示商談会に参加し、新規商品「やくぜん芳醇鍋スープ」、「富山ブラックカレー」、「国産雑穀米+やくぜん」や「やくぜんカレー」等の販促につとめました。
3. 海外での新規顧客の開拓を目指し、富山市物産振興会による中国(大連、上海)の展示・商談会に参加いたしました。
4. 北陸銀行ボーナス企画において、「国産15穀米+やくぜん」が採用されました。

業績の概況 (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	383,948	243,857	238,669	189,514
経常利益	6,858	-49,225	-5,352	-23,155

平成23年度
(第3四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

広貫堂薬品販売 株式会社

事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 第3四半期(4月～12月)販売面では、前年同期14億5,508万円に対し14億6,516万円の前年同期比100.7%、利益面では前年同期-2,467万円に対し-6,019万円で推移しました。仙台の震災による売り上げ減、並びに仙台地区での仮設住宅を中心とした新規開拓(約15,000軒)、冷蔵庫事業の拡張等、先行投資での経費負担増も起因しています。

(事業運営面)

10月よりエリア長を2名にし西日本、東日本を担当し、北海道、富山、新潟は本部管轄としました。

トピックス、適時情報

- 10月より我妻社長就任
- 24年度新卒者4名を採用、24年4月より開発推進部に配属予定

業績の概況 (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	1,365,627	1,380,139	1,455,087	1,465,163
経常利益	11,938	7,076	-24,761	-60,192

トキワ広貫堂 株式会社

事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

弊社の第3四半期業績は、前年同期比76.8%、売上高6,267万円の減となり、長期売掛金の処理による、返金・貸倒処理が売上減の要因となりました。又、オフィス事業の計画遅による今期運営中止も影響しました。

(事業運営面)

資産管理面の改善が行なわれ大幅なコストが削減され損益分岐点を下げられる見通しになりました。

トピックス、適時情報

- 代表取締役 平井社長が10月より弊社親会社の社長を退任し弊社再生に重点を置き常勤として沖縄に住居を構え今期末までに改善を図り24年度黒字化に向け取り組みを開始しました。

業績の概況 (第3四半期、平成23年4月～12月)

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	269,692	286,977	270,423	207,749
経常利益	-14,622	-1,824	-16,056	-41,548